

# SAYON



現在のSAYON（2008年）。



清左右衛門さん（左）・昭祐さん（中）・村子さん（右）



食堂時代の外観。「良心的の店 サヨン食堂」とある。



食堂時代のメニュー。焼肉丼 540 円（1993年）。

箱崎の老舗中の老舗、帝大前のサヨン。昭和5年から九州大学箱崎キャンパスで食堂を営んでいた初代大将・安武清左右衛門さん。戦後、帝大前にて「サヨン食堂」を開店。清左右衛門さんの当時の口癖は「九大生に安くてうまいもん食わせて、国を担う人物になつてもらう」。その言葉通り、「サヨン食堂」は長年「九大生の胃袋」として賑わってきた。

平成6年、「サヨン食堂」は改装し居酒屋「SAYON」へ。しかし、今もカウンターで「焼肉丼」を頼張る学生の姿からは、長い歴史の中でも変わらず守り継がれてきた「学生食堂・サヨン」の面影を感じとることができる。

## サヨン名物、焼肉丼！

大盛りご飯（1合半）の上に、これまたたつぷりの肉野菜炒めをのせたサヨンの名物「焼肉丼（松中丼）」。

多いときは一日1000杯、35合炊きの釜二つで交互に米を炊き、アメフト部やラグビー部などの部活生には大盛り焼肉丼（米2合）を振舞ってきた。「大将、焼肉丼だけは絶対変えちやいかんばい」との声を受け、変わらずここで守り継がれている。



驚異的ポリュームの焼肉丼（松中丼）。



上：サヨン横に停車する市電。  
左下：現在の帝大前。 右下：九大前電亭（1975年）。



二代目大将・昭祐さんが懐かしくも思い出すのが、1960年代の学生運動。エンタープライズ寄港でもめる佐世保に向おうと竹やりを持った学生が帝大前（九大前電停）に大挙して押し寄せた。市電の運転手が「おまえら、竹やりを全部捨てて、竹やりもって電車に乗んな、捨てたら電車動かす」と言い、学生は学生で運転手を取り囲んで糾弾。運転手が車両を降り、サヨンの前に座り込んだのも忘れられない一コマである。

## 帰ってくる場所、サヨン



左から昭祐さん・憲子さん・村子さん。



ついで山のように飲み食いする学生、下宿を引き払って居候する学生、飲んで店先に倒れこむ学生…その誰もが「ここで飯食って育っていった奴ら」、彼らの「帰ってくる場所」、それがサヨンだと大将は語る。

この60年間、大将がその目で見てきたもの、それこそが、九州大学が箱崎に生きたという確かな証なのかもしれない。

お店の歴史が大学の歴史を物語り、お店の変化が学生の変化を物語るほどに、大学・学生とともに歩んできたお店「SAYON」。

時代を越えて繋がる『絆』。

「サヨンの親父が今日も待っています！」



●福岡市東区箱崎 3-9-35  
営業時間 17:00~25:30  
定休日：日曜日  
TEL: 092-641-0483

